

# わかやまソフトウェアコンテストによる

## 高度情報化社会を担う人材育成活動

— 産業界主導の情報系人材発掘・育成への活動 —

産業高度化支援機関 株式会社 和歌山リサーチラボ

事業部長 山田 俊治

E-Mail : yamada@wrl.co.jp

キーワード：産学連携、ソフトウェア、コンテスト、情報教育

### 1. はじめに

和歌山県下の情報系企業が主体の団体として、平成4年に和歌山県下の製造業等の賛助会員企業や和歌山大学等の特別会員も含め、約75社の企業・団体・事務所等々により設立され、来年度には15周年を向かえ現在では全会員数は100社を超えるに至っています。協会の設立目的は“情報サービス産業界の人材育成・交流促進・ソフトウェアの開発促進、及び情報関連技術の利用促進を通じて、和歌山県の情報化を促進し、和歌山県下の経済・社会の発展に寄与すること”としています。その目的達成のひとつである、将来の情報産業界を担う人材育成を主要事業とした、「ソフトウェアコンテスト」を設立以来継続して開催し、今年度で14回目となっています。

当事業には、産官学連携事業として和歌山県教育委員会のご後援と共に、和歌山県から補助支援を頂き最優秀賞としての県知事賞も提供していただいています。その他和歌山大学、近畿大学、和歌山県高等技術専門学校、会員企業各社からのご後援と各賞の提供へと沢山のご支援の下で、協会内に「ソフトウェア実行委員会」を設けて、各会員企業の多忙な社長業務の合間を縫って公募案内から表彰式運営までの活動をしています。

### 2. 活動内容

#### (1) 公募対象

対象は概ね和歌山県下の小中学校、高等学校、大学、専門学校、一般と幅広く案内し、県下の約600校に毎年1学期早々の4月初旬に公募案内書をお送りして、授業の一環や夏休みの宿題、或いはクラブ活動の一環等々に取り入れていただいで応募を頂いています。時により県外も対象としていますが、県下に在住、通学・通勤されている人を対象とした人材育成を主眼とした活動です。

#### (2) 公募活動

例年、4月度に県下の各学校宛に活動案内書を郵送し、5月度には応募概要・申込書つきのチラシ配布を行い、夏休み明けの9月度の一ヶ月間を作品応募受付期間として、11月度に優秀作品のプレゼン発表と共に表彰式を行っています。より多くの作品応募をして頂く目的で、ソフコン実行委員会のメンバーによる県下の主要学校への訪問や、公共施設等へのチラシの掲示・配布、協会企業各社への案内、及び会員企業からの技術指導等により、より良い作品をより多く応募して頂けるように活動しています。

#### (3) 応募作品の内容

近年の傾向を反映して、今年はパソコン上で動作するゲーム・クイズ・アミューズメント・ユーティリティ等のソフトウェア作品と幅広くしています。また、年度によりCG（コンピューターグラフィック）作品の公募もしています。

#### (4) 審査に関して

協会のソフトウェアコンテスト実行委員会のメンバーによる第一次審査の後、小学校、中学校、高等学校、専門学校、大学の各審査委員による創造性、技術力、表現力等々の審査基準を基に、厳正な本審査を行い入賞作品を推挙していただき表彰式に臨んでいます。

#### (5) 表彰に関して

事前に入賞作品の案内を応募者に通知し、表彰式当日には各入賞作品を作成者に舞台上でパソコンを活用してのプレゼン発表をして頂き、改めて審査委員の方々による審査で、県知事賞としての最優秀賞から企業賞としての優秀賞、大賞校推薦の特別審査委員長賞、及び当日のプレゼン賞等もり沢山の各賞を、最高10万円から5万円相当までの商品と共にすばらしい盾と表彰状を授与しています。



写真1 子供たちの発表



写真2 最優秀賞の発表



写真3 表彰状授与

## (6) 結果の公表

最優秀賞から入賞作品までの作品と作成者の紹介を兼ねた“作品集冊子”を制作して、作品応募者への送付と共に次年度への案内冊子として活用しています。また、「ソフトウェアコンテスト」のHPを制作して作品応募案内から優秀作品の案内を行い、協会のホームページにもリンクしています。



写真4 受賞者と関係者

## < 成果 >

- (1) 最近、小学校の低学年性から70歳以上のかなりの高齢者までの幅広い方から作品応募を頂いている。特に、定年退職された高齢者による自治会活動や趣味の活動作品が多くなっている。
- (2) 優秀賞決定に向けての入賞作品の発表（基本は5分間）では、多くの観客を前にしての舞台上で小学生の低学年でもハッキリと元気に行われ、プレゼンの経験場の提供にもなっている。
- (3) 小学校から一般までを同じ場でプレゼン発表することにより、低学年生にとってはより高いレベルの作品との出会いと発表表現力を現場で勉強することが出来ている。
- (4) 親子による単独・合作の作品応募もあり、親子の協力、競争、コミュニケーション等々が出来ている。
- (5) グループによる共同作品、親子による共同作品、先生との共同作品、クラブ活動の紹介作品、仲間との共同作品、兄弟による共同作品・・・共同作業による作品が多くある。
- (6) 最新のフラッシュ技術等を低学年からも使用され、毎年技術力が向上している。

## < 課題 >

- (1) 失礼ですが、情報教育への環境整備が整いつつあると思いますが、先生方の取組みがこれから真剣に必要なと思われま。応募者の中には先生に聞いても知らないのでは！とよく言われます。
- (2) 応募して頂ける学校等有る程度固定化もされているので、より多くの学校に参加して頂きたい。
- (3) まだまだ学校のホームページが無い、また有っても先生・生徒の参画が無い場合が多く、情報系教育の一環としてまずはHP作成から始めていただきたい。
- (4) ITを教育の“道具”として、またICTへの移行に伴いコミュニケーションの“道具”として学校生活の中で活かしてもらいたい。
- (5) “道具”として活用する中で、個人情報保護やセキュリティ等々への正しい使い方とルール作りをしてのマナー教育をお願いしたい。

## 問い合わせ先

和歌山県海南市南赤坂11番地 (株)和歌山リサーチラボ内  
 (社)和歌山情報サービス産業協会 事務局  
 TEL : 073-483-7300 FAX : 073-483-6060

(社)和歌山情報サービス産業協会 URL : <http://www.wakasa.or.jp/>  
 ソフトウェアコンテスト URL : <http://www.wakasa.or.jp/>

以上